

レスキュー犬のデモと災害時の犬への対応についてのレクチャー

主催 NPO 法人湘南にドッグランを作る会

共催 (株) 湘南なぎさ事務所

協力 大島ドッグトレーニングスクール

開催日時：2014年10月19日 13時～ 湘南海岸公園 多目的広場

訓練士：大島かおり訓練士、斉藤訓練士、生徒さん 2名

犬：ノン（ゴールデンリトリバー）、うるめ（ボーダーコリー）

☆ 搜索訓練についてのおはなし：大島訓練士

このところ災害が多く、広島での土砂災害でも全国の災害救助犬のNPO団体が集まって救助隊に協力して活動している。ドッグサーチについてはニーズが多いが、民間レベルでの活動しかなく、各団体は持ち出しが多いので仕事犬にご理解をいただいてご支援をお願いしたい。

ODTS（大島ドッグトレーニングスクール）のうるめ（ボーダーコリー）と2日間に渡りドロドロの中を救助活動に参加して来ました。

犬は人の数千倍から数万倍の臭気を感じることができるので、災害救助犬は男女、老若、子供、赤ちゃんなどすべての閉じ込められている生きている人の隙間からでる臭気で見つける。

警察犬との違いは警察犬は、一人の個人の臭気で見つける。

「搜索開始します！」の声かけをすると犬もお仕事に入ることを理解して活動します。大好きな人を捜したい、見つけると褒めてもらえ、ご褒美に遊んでくれる楽しいことと訓練を受けているので、大変な訓練と云うより楽しんでいる。

☆ レスキューのデモンストレーション

服従訓練が斉藤訓練士とノンちゃん（ゴールデンリトリバー）が見せてくれました。

来月救助犬のテストを受けるノンちゃんが、時々戸惑う姿がご愛敬で可愛かったです。

- ・服従：リードなしで訓練士について一緒に歩く、歩いて止まると一緒に止まる。
- ・言葉をかける：犬にとって2つの動作を理解するのは大変なことだが訓練で可能となる。行進中に「座れ」正座、離れて、呼び正座、離れて正座で「待て」、遠くから指示をだす。二次災害を防ぐために搜索の時に人の安全を確保しながら指示を出せるようにする
- ・物品受来：人を探すと同時に物を運搬する（懐中電灯、リード、靴など持ってくる）物を投げて、「持って来い」、「出せ」で口を緩めて渡す、褒めてもらえる。90cmの障害を越えて持ってくる、褒めてもらえて楽しく活動！
- ・不安定な足場を平気で歩く訓練：指導者は安定した場所において、高いところや不安定な所を通過できるように指導
- ・暗い部屋、隙間など先の見えないトンネルを通過の訓練：通過途中で止まってしまうのは危険なため抜け出て、そこで指示を待つことを指導
- ・遠隔操作：地震の続く中、二次災害を避けるため犬に方向を指示し搜索させる。「前へ」「待て」「右へ」「左へ」「奥へ」の言葉で動いて「来い」で戻るように訓練。犬も方向性をもって行動できるようになる。

☆被災したら愛犬はどのような状態になる？のシュミレーションを参加者が体験

- ・倒壊家屋に見立てたテントの中に入れるか
- ・ガレキと見立てた障害物を置いて足場の不安定な場所を歩けるか
- ・高いところを歩いて通過できるか

レスキュー犬のデモと災害時の犬絵の対応についてのレクチャー



斉藤訓練士とノアちゃんが
デモンストレーションを
頑張ってくれました。

↑ 左奥はガレキに見立てた
ペットボトルなど

↑ ついて歩く 服従訓練：
↑ 右奥は倒壊家屋に見立てたテント



↑ トンネルの入り口



先の見えないトンネルの出口

